



働き方改革のための部活動地域移行において（アンケートまとめ） 意見投稿ありがとうございました！

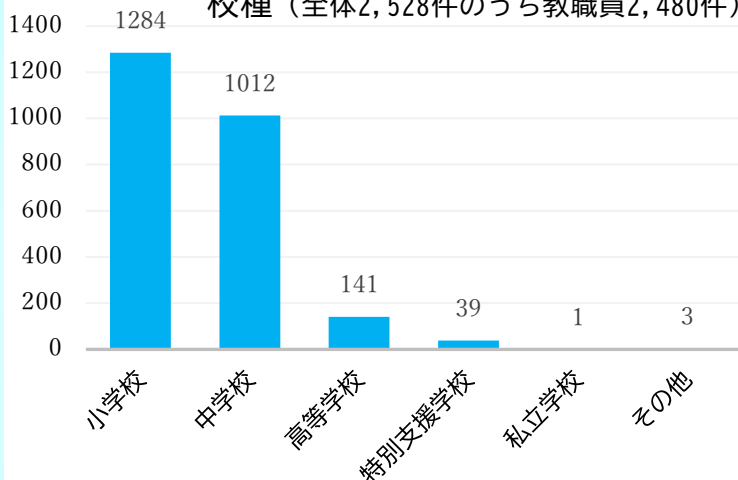
2025年9月 JTU 日本教職員組合

校種（全体2,528件のうち教職員2,480件）

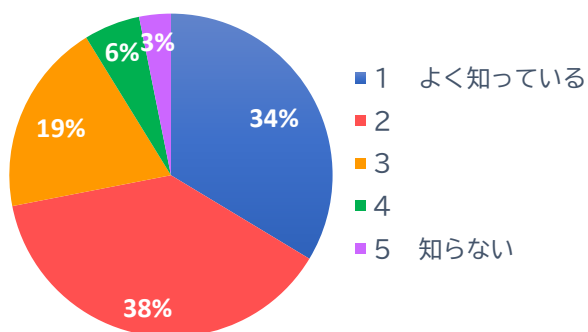
日教組「働き方改革のための部活動地域移行」のパンフレットを見てくださりありがとうございました。意見投稿フォームにはたくさんの声が寄せられました。（7月1日時点 2,528件）保護者や一般・学生の意見（48件）も集まりました。

概ね地域移行について肯定的にとらえられており業務改善、負担軽減などの働き方改革につながる期待の音がたくさん集まりました。

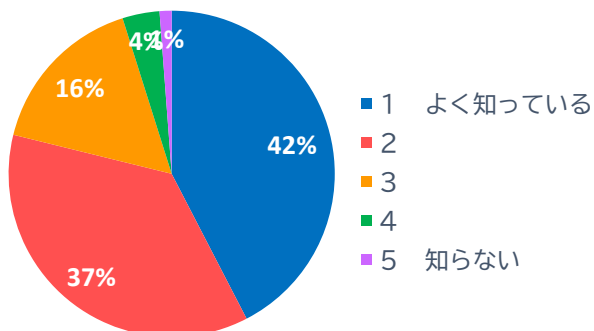
現在、部活動において生徒の活動を支えてくださっている中学校の教職員からは不安の声もたくさん集まっています。ここでは中学校の教職員の声（1,012件）を中心にまとめています。



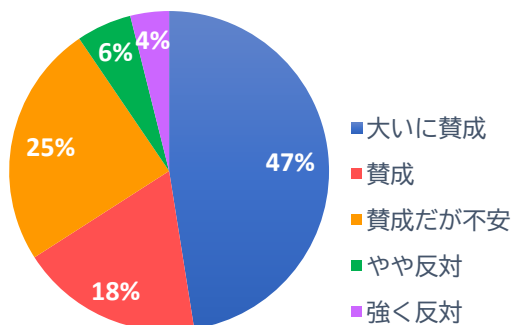
地域移行のことを知っていますか
（全体）2,528件の回答



地域移行のことを知っていますか
（中学校）1,012件の回答

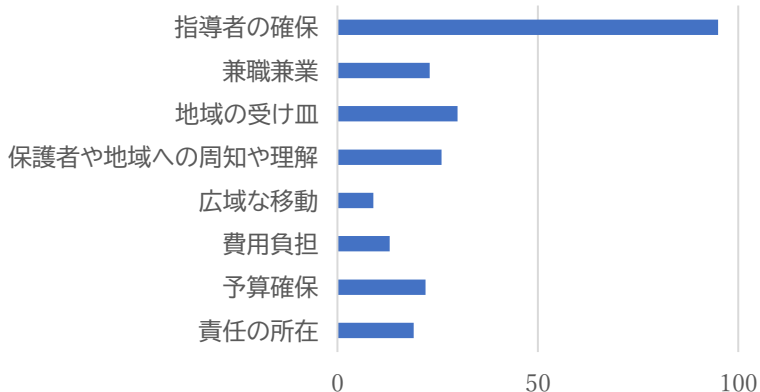


地域移行について賛成ですか
（中学校）179件※の回答



※この質問は意見募集から2か月ほど経ってから追加した項目のため、回答者数が179件と少なくなっています。

意見に含まれる主なワード（重複回答あり）



棒グラフは、それぞれのワード（類似語含む）を含む回答数です。一つの意見にいくつものワードが含まれる場合がありますので、重複してカウントしています。部活動で生徒とむきあっている教職員だからこそ見えてくる課題や、子どもたちへの影響が心配という声がたくさん集まりました。



集まった意見をもとに、これからの「地域スポーツ・文化芸術活動」のあり方を、部活動に熱心にとりくんでいる子どもたちや、多忙な学校現場でありながらも生徒とむきあっている教職員にとって、よりよいものにするために、また働き方改革が実感あるものにするために、引き続きスポーツ庁・文化庁や文科省と協議をすすめていく必要があります。

さらに、都道府県や市町村においても地域の特性をふまえ、よりよい部活動改革につなげるため協議を積み重ねていく必要があります。

以下に、寄せられた不安の声を紹介します。



《指導者の確保》

- ・指導員や支援員の確保が難しい
- ・安心して預けられる指導者やグループであってほしい(保護者)
- ・地域や種目によって偏りがある
- ・学校での生徒指導に影響がないか心配
- ・小規模の学校が点在する地域では、他校の生徒と合同で活動することも、地域に指導者を求めることも大変難しく、結局生徒が不利益を被ることになりそう
- ・学校が地域の指導者と保護者・生徒の間に挟まれる立場になるようで心配
- ・生徒のことを理解した指導者ばかりではないことが心配



《予算の確保》

- ・どのように予算確保するのか?
- ・予算をしっかりと確保し、交通面の改善や受け入れてくれる団体などへの備品等の補助金など、部活があった時と変わらない子どもたちの選択肢を確保できる環境を作してほしい

《生徒・保護者への影響や負担》

- ・活動するクラブの用具(楽器)などが個人負担になることが心配
- ・地域が広範囲になると、参加できない生徒が出てくる
- ・部活がなくなること、したいスポーツや文化に触れる機会を奪われる
- ・保護者の送迎や協力が前提のような地域移行では参加をあきらめる生徒が出てくる
- ・校区外での活動も出てくると生徒の負担は増えると思う
- ・大切なのは子どもたちの幸せの実現であり、それを応援すること
- ・遠征のためのバスや宿泊など、全て保護者が準備するため保護者の仕事が増えました(保護者)



《生徒・保護者や地域への理解や周知》

- ・誰かの負担で成り立つものではなく、誰にとっても持続可能な方法を考えてほしい
- ・行政は学校に働きかけるよりも、保護者にむけてわかりやすく、今後はどうしていくべきなのかなどの説明が必要
- ・来年度入学予定の生徒にかかわることなので、もっと丁寧な説明をするべきだが、見通しが不透明すぎて説明できない

《その他》

- ・休日・平日関係なく完全に部活動を学校から切り離さない限り、教職員の負担軽減にはならないと思う
- ・運動部のことはとらえられているが、文化部のことは考えられていない
- ・国が方針を示しているのに、市町村によって偏りがあるのは疑問
- ・地域移行に賛成ですが、部活動の仕事は「技術の指導」だけではなく、ほかにも多くの業務があり、それらも教員がやらなくてもいいようになってほしい
- ・兼職兼業を強要されることを懸念します
- ・部活動改革は、部活動だけでなく、教師という仕事在社会から何を求められているのかを再考する機会にすべきだと思う